

平成26年度学校評価結果及び学校関係者評価結果

ア 自己評価結果

重点目標		生徒が自ら進んで専門分野（各教科・科目）に精通するとともに、良識ある社会人としてのモラルを実践できる総合力を育成する。	
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	<ul style="list-style-type: none"> 週33授業時間数の実施を円滑に進める。 中間評価を踏まえながらSSH事業のさらなる活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間割作成等運営面、研究授業週間活用等内容面の両面で円滑な授業実施を支援する。また年間を通し行事等の日程設定を検証し次年度に生かす。 国際交流事業の一環である海外からの生徒を受入れる企画の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業時間の確保を重視し、積極的に日々の時間割変更を行うことができた。新教育課程の授業も順調に実施されている。33時間授業時間による生徒の生活状況の変化等を来年度も生活実態調査などを通じて把握したい。 全校生徒に国際交流事業の成果を還元する機会を設けることができた。
総務	生徒が専門分野に精通できるように各種行事の充実と生徒の学習環境の整備を進める。同時にPTA活動の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 式典等学校行事の円滑な運営と充実及び生徒の学習環境の充実を図る。 PTA組織の改編に伴い進めている役員会、実行委員会の開催時期、学年委員会の在り方や各種専門委員会の諸活動等の検証を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 式典等学校行事は円滑に運営できた。学習環境は今後も継続して整備する。 委員会の開催時期については定着した。委員会の在り方については、改善を図ったが、依然問題の残るもの、また対策により、新たに課題が生じた項目において、対処法を探っていく。
生徒指導	良識ある社会人としてのモラルを実践できる力を育てる。	「礼節を重んぜよ」をテーマに、日々の遅刻指導、身だしなみを考えさせる週間を活用した身だしなみ指導を通して礼儀や責任を果たす能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 5月と9月の更衣時期の「身だしなみを考える週間」学年の多くの先生に協力いただくことができた。普段からの「声かけ」を充実させたい。授業中のカーディガン着用については、生徒会からの要望に応じて「申し合せ事項」の変更を行った。これにより、さらに落ち着いた学習環境を作り上げたい。
進路	本校進路指導の在り方を確認し、その上できめ細かな進路指導を展開して生徒の進路実現を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「進路案内」の改訂、「進路通信」の充実を図る。 学年会と連携した進路情報交換会を持つ。 本校実力考査の進路指導への一層の活用方策を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路案内」の改訂を行い、系統的な進路指導ができるように努めた。 3年学年会では情報交換会を行った。1、2年学年会では情報提供を行ったが、進路に関する情報交換会を設けることも検討したい。 実力考査結果と本校の入試状況との関連性について職員間で情報の共有化を図った。また、実力考査記録様式を改善し継続して学力を把握できるようにした。今後、実力考査により生徒の学力をよりの確に測定できる方策を検討したい。
保健	防災訓練、学校保健活動(清掃)等、保健部関係諸活動の中での「気づき」を重視し、生徒自らが「良くしていこう」という心を養う。	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練の実施方法を変更し実際の災害時と同様に突然の状況下での安全確保、速やかな行動等の適応力を育む。 自主的清掃・点検活動を通した美しい学校を作る活動から生徒に仲間意識を持たせ、情操を養い、責任感を育む。 	概ね時と場所に応じて生徒の「良くしていこう」という心を育むことができた。一方保健委員の仕事量が増えたため、次年度に向けては、人数を増員し学校保健活動のより一層の充実を図りたい。
生徒会	全校生徒が主体的に活動できる企画・運営を行う。	執行部が主体的に活動できるように、適切に助言するとともに、議会、委員会、連絡会を利用し、全校生徒が生徒会行事に主体的に取り組むための意識づくりをする。	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が前年度からの引継ぎ、反省を生かして主体的に活動でき、特に学校祭の準備・運営で改善が見られた。 全ての議案を議会で語り、活発な議論ができた。 今後も継続して改善点を検証したい。
図書	生徒および教員の図書館利用を活性化させる。	<ul style="list-style-type: none"> 新刊書の紹介を強化する。 「図書館報」の新たな紙面作りを生徒図書部に考えさせる。 	今年度の貸出冊数は2286冊で、昨年度次いで過去4年で2番目であり、よく図書館が利用されたといえる。またホワイトボードを設置し授業をできるようにした。来年度もさらに、授業での活用等、図書館利用の工夫を進めていきたい。
教育情報	情報処理システムの合理化を進め、職員が生徒と向き合う諸指導の充実を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> 指導要録と調査書作成の合理化をさらに進める。 従来の成績処理にかわる校務支援システムの活用を研究する。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導要録(1、2年)と調査書をうまく運用できている。 校務支援システムでの成績処理の研究を進めていく。

項目 (担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教育 相談	相談活動を通して、生徒の自主・自立を手助けする。	担任の観察による生徒情報を学年会で共有し、心身の健康を保てるように注意深く見守る。	担任、学年会、その他、生徒との関わりの中での早めの情報で対処できた面が多く、今後も継続していきたい。
音楽	・音楽と学業を両立させる。 ・社会人としての素養を身につけさせる。	・家庭での練習や学習が計画的に行われているか、日常の声かけや定期的な面談を通して指導する。 ・整理整頓を心がけさせ、美しい環境で生活するよう意識をもたせる。	音楽と学業の両立は永遠の課題であるが、一人一人が環境や状況に応じて、計画的に生活出来るように個々の生徒の事情に応じて指導したい。 美化意識は少しずつ定着しているが、さらに自発的に活動できるよう指導していきたい。
1年	生活リズムを整えさせ基本的な生活習慣及び温厚篤実な人間性を養うとともに、基礎的な学力をつけさせる。	・効率的な時間の使い方や、日々の授業と家庭学習に取り組む姿勢を確立させる。 ・特別活動、課外活動への積極的参加を促し、学校生活の充実を図る。	学習への取り組みや学校生活における時間の遵守等、全体としては、落ち着いた姿勢で送らせることができた。今後もそれらを継続していくことが課題である。
2年	学校の中核学年として学業及び学校行事に積極的に取り組ませる。	学習、進路、修学旅行、学校祭、部活動等の各場面で、生徒が誇りを持って積極的に取組めるよう指導・助言する。	学校行事や部活動について、中心学年として主体的に活動し、成長が見られた。学習面においても類型登録をきっかけに熱心に取り組むようになった。来年度はさらにしっかりと進路意識を持たせたい。
3年	生徒の進路希望の実現を図る。	・生徒の学習状況、進路希望を学年会で情報共有するとともに、進路指導部と連携し生徒の在り方や特性を十分考慮した適切な進路指導と学習指導を積極的に展開する。	各教科の反省に基づいた綿密な指導の結果、例年に劣らぬ状態で受験本番を迎えることができた。生徒の望む進路実現へ向け、進路指導部と連携し、学習状況の共有、指導が実施できた。 行事・部活動等、学校生活の中で、生徒から3年生としての自覚を持った取り組みの姿勢を引き出すことができた。
いじめ 防止等	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の様々な発信を把握するため、生活実態調査、個人面談、健康観察等を活用する。	いじめに限らず生徒が内面に抱える悩み等の情報発信を早期に把握し、関係者で連携して対応することができた。
総合評価		生徒が自ら進んで専門分野に精通するように、様々な分掌・学年で具体的な工夫・改善策を実施した。また、社会人としてのモラルを実践できるように、学校全体で意識して取り組むことができた。今後もSSH事業を活用するなどして、目標の実現に努力していきたい。	

イ 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した 主な評価項目	・専門分野に精通する人材を育てることができたか。 ・良識ある社会人としてのモラルを身に付け、実践できる総合力を育成することができたか。
自己評価結果について	・学校の各取組が目的をもって年々しっかりとされている。 ・卒業式の生徒の様子に充実した教育活動の成果が現れている。 ・SSH事業は興味深い取組が多い。
今後の改善方策について	・平成27年度はSSH事業が5年目最終年度である。5年間のまとめとなる研究発表会を計画し、事業の成果を広く発信する。
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	・大学卒業後、社会に出てどのように活躍するかという職業観の育成も大切である。 ・イギリス、オーストラリアそれぞれに国際交流の道筋を切り拓いたことを高く評価する。永く継続できるように、しっかりしたパイプを築いて欲しい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成・・・学校評議員4名及びPTA会長・副会長 評価時期・・・3月1日